

(2) 地域の防災訓練への当事者参加の取組み

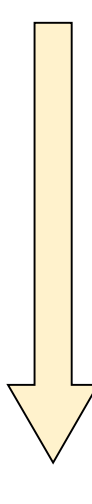
災害時の避難行動要支援者に対する避難支援の体制づくりのために、当事者も参加した防災訓練が行われています。



1 ポイント

- ・ 実動の防災訓練・避難訓練に避難行動要支援者が参加
- ・ 避難行動要支援者の支援の課題が明らかになり、今後の仕組みにつながります。
- ・ 支援を必要とする方の状況を、地域住民が知ることができます。
- ・ お互いの交流が図れ、声のかけやすい地域づくりにつながります。

2 訓練の流れ（参考）

- 
- ① 災害情報の確認と伝達準備
 - ② 避難情報の伝達
 - ・ 地域の避難支援等関係者からの声かけ
 - ③ 避難行動
 - ・ 地域の避難支援等関係者の方と一緒に避難
 - ④ 避難所到着
 - ・ 要配慮者用の福祉スペース（和室等）に避難
 - ⑤ 防災講話、救命救急、地震体験等を受講
 - ・ 避難行動要支援者もできる範囲で一緒に参加

ここで
避難行動要支援者
名簿を活用！



障がい者等の避難行動要支援者も参加した実働防災訓練

別府市では、実効性のある防災体制の構築を目指し、平成29年から地域と連携し、障がい者を含めた防災訓練が行われています。

◇取り組みに至った経緯

大規模災害の発生時、障がい者や高齢者らの命をどのようにして守るか。

別府市が、熊本・大分地震後に市内の障がい者に実施した調査からは「避難所の環境が不安」「迷惑をかけるから避難する気がない」など、7割以上が自宅で過ごしたことが判明し、避難行動要支援者の「支援の在り方」が浮き彫りになったそうです。

◇取り組みの内容

はじめに、避難行動要支援者の災害時ケアプラン（個別避難計画）を作り、事前に住民が障がい者の情報を共有する会議を開催。障がいの特性や避難時の注意点を把握し、意見を交換しながらみんなで最適な避難方法を探っていきます。

参加者からは「障がいのある人たちがどんな支援が必要かを知ることができた。地域の理解も深まった」という声が聞かれたそうです。



この取り組みを行った地区では、これまでも、毎年、地域で避難訓練を行っていましたが、当事者も参加する避難訓練を行ったことで、「これまでは障がい者の視点が抜けていた」「車椅子の人に配慮した新たな避難ルートを設けよう」など、住民の意識が変わりつつあるとのこと。



障がいを持つ参加者からも、「障がい者自身が『当事者』として防災意識を高めていくことが重要」「他の地域や団体にも事業を広げていきたい」といった声があがっているそうです。